

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 09年7月 ～輸出の回復ペースが鈍化

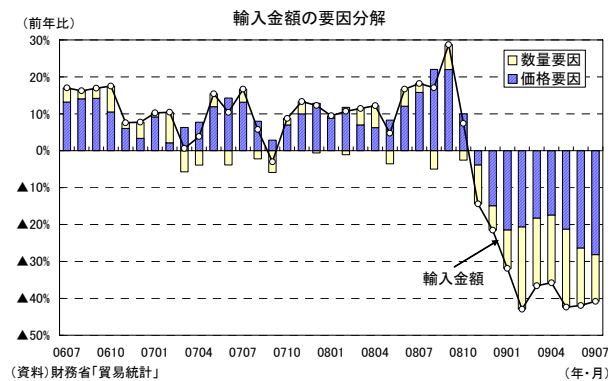
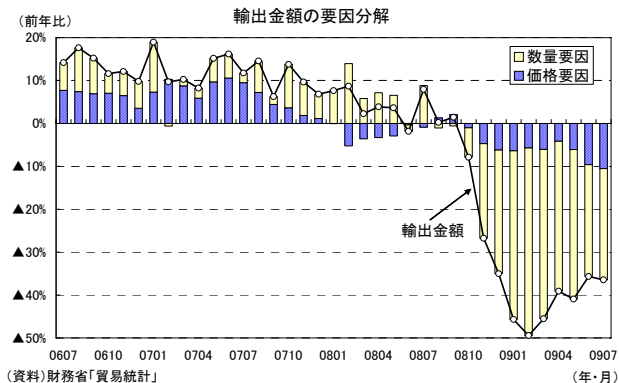
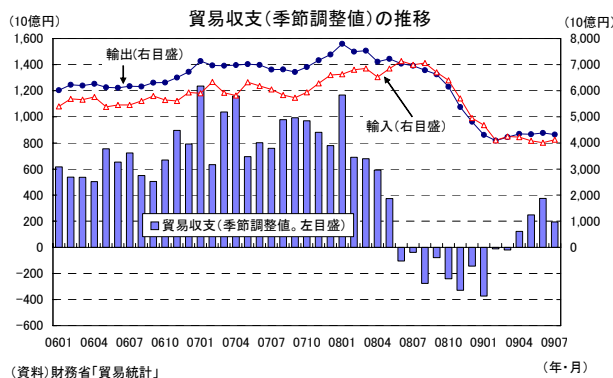
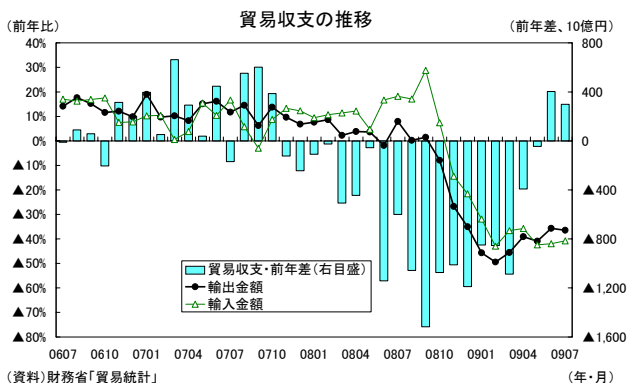
経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は2ヵ月連続で改善

財務省が8月26日に公表した貿易統計によると、7月の貿易収支は3,802億円の黒字(前年比364.2%)となり、ほぼ事前の市場予想(ロイター事前予想:3,850億円、当社予想は4,384億円)通りの結果となった。

4ヵ月連続で減少幅が縮小していた輸出は前年比▲36.5%(6月:同▲35.7%)とマイナス幅が若干拡大したが、引き続き輸入の減少幅(6月:前年比▲41.9%→7月:同▲40.8%)を下回ったため、貿易収支は2ヵ月連続で前年よりも改善した。季節調整済の貿易収支は1,945億円と4ヵ月連続の黒字となったが、黒字幅は前月の3,741億円から縮小した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲27.6%（6月：同▲27.6%）、輸出価格が前年比▲12.2%（6月：同▲11.1%）であった。

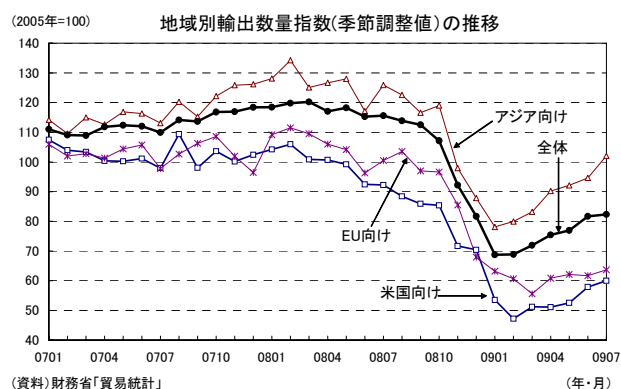
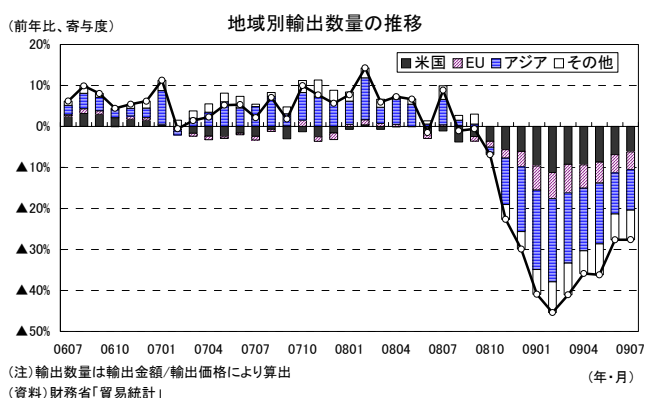
輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲14.9%（6月：同▲18.2%）、輸入価格が前年比▲30.5%（6月：同▲29.1%）であった。

2. 新興国向けの輸出が低調

輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲34.7%（6月：同▲37.4%）、EU向けが前年比▲36.4%（6月：同▲36.1%）、アジア向けが前年比▲18.6%（6月：同▲19.0%）となった。当研究所が試算している主要3地域以外のその他地域（中東、ロシア等）向けの輸出数量は前年比▲40%を超えるマイナスとなり、輸出全体を大きく押し下げている。

地域別の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前月比3.7%、EU向けが同3.3%、アジア向けが同7.8%といずれもはっきりとした上昇となった。大規模な景気刺激策の効果が顕在化している中国を中心にアジア向けが特に高い伸びを続けており、輸出の牽引役となっている。ただし、新興国向けの輸出が低迷しているため、輸出数量全体では前月比0.7%と、6月の同6.2%から上昇ペースが大きく鈍化した。

一方、輸入数量指数は前月比1.5%と2ヵ月連続で上昇した。内需不振を背景に輸入数量は低下傾向を続けてきたが、国内生産の持ち直しなどを反映し、ここにきて下げ止まりつつあると判断される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。